



〔推薦制度〕
高校3年間の学業成績と卒業研究論文、自己推薦の各評価をポイント化して、その合計で推薦順位が決まります。その順位の上位者から各学部学科の推薦人数枠の範囲で、希望する学部学科を選択します。
・高校卒業に必要な単位の修得(3年間の成績) 55%
・卒業研究論文の認定 20%
・自己推薦項目の認定 25%
・英語に関する一定の能力を習得(英検2級程度)

PICK UP DATA

共学校	創立 73年	生徒数		クラブ活動			内部進学率
		男子 980人	女子 1040人	運動部 22	文化部 38	同好会 16	

ココが始まり!

教育理念

「地の塩、世の光」

キリスト教信仰に基づく教育をめざし、神の前に真実に生き、真理を謙虚に追求し、愛と奉仕の精神をもって、すべての人と社会とに対する責任を、進んで果たす人間の形成を目的とする。

ココに注目!

10教科を等しく大切に教養を身につけさせ、 サーバント・リーダーを育てる

幼稚園から大学まで同一キャンパスに集う同校。構内は、年齢も国籍も超えたさまざまな人が行き交い、多様性を体現したかのような場となっています。それが、自由でおおらかな校風を生む要因の一つかもしれません。

キリスト教信仰の下、人格を陶冶しつつ教養教育を展開する同校は10教科(9教科+聖書)すべてを等しく大切にしています。「高等部に推薦する際は、10教科を同じウェイトで重視しています」と、部長の上野亮先生は語ります。「聖書のキーワードの一つに「賜物」がありますが、とくに中学時代はいろいろな素材に触れられる、一生のうちでも貴重な時間ですから、教科学習にしばられずに熱中できるものに出会い、賜物を磨いていってほしいですね」

中等部の教育は「3つのC」。Communication、お互いコミュニケーションを取りながら、Collaboration、協力し合い、Creativity、創造力豊かな生徒を育てていきます。また、主体的に学ぶ典型例の一つに中3の「選択授業」があります。現代社会の課題について学び、解決策を考える「ソーシャル・イノベーション入門」や、古典から現代の共通鍵方式までを数学を通して学ぶ「暗号」といったユニークなものも。先生方の専門性を活かし、創意工夫と熱量にあふれた授業が実践されています。

キリスト教主義、自由な校風、教養教育など、同校のキーワードはいくつもありますが、「先生方は決してNoとは言わず、どうすれば実現できるか一緒に考えてくれた」「礼拝を通して個性や違いを良いものとし、認め合うことを知る。私自身、誰とでも自然に接することができるようになった」という卒業生の言葉からも、同校の空気感が端的に伝わってきます。

あえて「リーダー」ではなく、「サーバント・リーダー」の育成を掲げる同校。教育理念の「地の塩・世の光」がブレることはありません。「聖書には、キリストが十字架に磔になる前の「最後の晩餐」の時、弟子たちの足を洗ったことが記されていますが、当時、召使の仕事であった足を洗うことをキリスト自らが行ったことこそがサーバント・リーダーの精神であり、キリスト教の愛と奉仕の精神の原点です。生徒たちには自分のためだけではなく、他者のために、社会のために、そして世界平和を実現するために貢献できる人になってほしいと願っています」

ココがちがう!

2017年より「教科センター方式」を導入。 「学びに向かう」ことで、学校全体が活性化



教科センター方式をとる同校では、生徒たちは授業ごとに専門教室に向かいます。そして、フロアごとに10教科の特徴を生かした3つのゾーンが。①「専用教室」…授業を実施。②「メディアスペース」…資料や作品、図書などを展示。アクティブラーニングも実施。③「教科準備室」…先生方が授業の準備や教材研究などを行う。例えば、数学科のメディアスペースの床はペンローズ・タイルでできていますが、これは2020年にノーベル物理学賞を受賞したR・ペンローズ博士が考案したもの。このように生徒たちはホームベースを起点に、好奇心を発揚する種に満ちた空間を巡りながら、主体的に学ぶ姿勢を獲得していくのです。

ココで活躍!

活躍する先輩たち

Voice



俳優

玄理(ヒョンリ)さん(2005年卒業)

極めて男女平等というか、女子が強いぐらいの校風の中でのびのびと学校生活を送らせてもらいました。礼拝では正直、寝てしまった日もありますが、大人になった今、辛いこと不安なことがあると自然とお祈りをしたり、聖書の語句が自分を救ってくれる瞬間も多々ありました。現在は俳優のほか、ラジオでパーソナリティーも努めています。ジェンダーギャップやマイノリティへの配慮が求められる今の時代において、日々の生活に心細さを感じている人々をエンパワーメントできたらと思っています。今でも「地の塩、世の光」という聖書の語句が頭に浮かぶんです。そんな存在に一歩でも近づけるよう努力していきたいです。



IT企業勤務

鷗飼 佑さん(2007年卒業)

勉強勉強と言われず、いろいろなことが自由にできる学校生活でした。現在は外資系IT企業の研究開発部門で、子どもたちにワクワクするプログラミング教育を届けるというテクノロジーと教育をつなぐ仕事をしていますが、中等部在学中からプログラミングを楽しんでいたことは間違いなく今の仕事につながっていると思います。また、社会人になってからは基本的に外資系IT企業で働いていますが、英語に対する苦手意識がないことも中等部の英語の授業のおかげだと感じています。短期的目標としては、世界中で性別や環境に関係なく、誰でもコンピュータサイエンスを学べる環境を作ることに自分の時間を注ぎたいと思っています。